

- タ イ ト ル : がん在宅療養フォーラム 2025 東京  
「いつでも頼れるがんの情報と相談先  
探す、選ぶ、そして活用する」

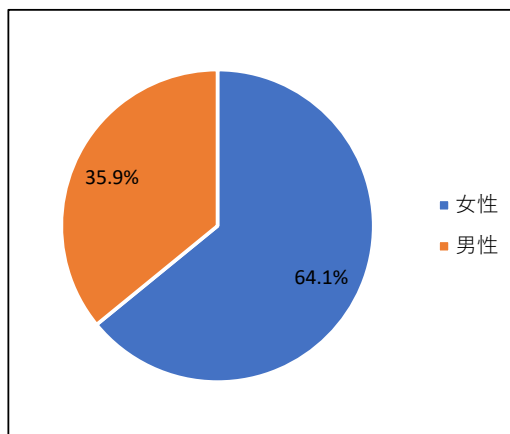
## アンケート

- 日 時 : 2025年2月16日(日)15:00~17:30
- 会 場 : 会場とオンラインのハイブリッド開催  
会場: 東京大学先端科学技術研究センターENEOSホール  
(東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学駒場Ⅱ・リサーチキャンパス3号館南棟1階)
- 対 象 : がん患者さん、ご家族、支援者、医療従事者、介護・福祉関係者、行政担当者はじめ、どなたでもご参加いただけます。
- 開 催 概 要 : 診断と治療の進歩により、がんの医療は大きな進歩を遂げています。一方で、通院期間が長くなったり、治療に伴う副作用や後遺症のためのケアが必要になったり、生活面や経済的な面、人間関係を含めて不安や心配ごとに悩むがん患者さん・家族の皆さまは多くいらっしゃいます。病気を経験した方を、治る・治らないに関わらずその人として寄り添う、支えるという考え方が広がってきています。また、最近では生成系人工知能(AI)をはじめとして、大量の情報をもとに、情報提供や相談に活用できる技術が発達してきています。フォーラムでは、信頼できる情報と相談窓口についてご紹介しながら、活用できる情報ツールや、支え合いの場、そして誰もが取り残されない支援の輪の充実について話し合います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。
- 参加者数(講師含) : 144名(会場20名+オンライン124名、講師のぞく)
- アンケート回収数 : 78 件

- 主 催 : 一般財団法人在宅がん療養財団
- 後 援 : 一般社団法人日本がんサポーターシップケア学会
- 協 力 : 東京大学先端科学技術研究センター  
地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト
- 助 成 : 公益財団法人日本財団

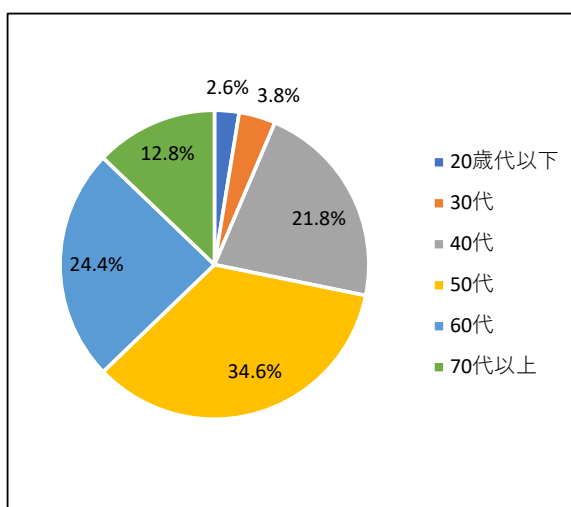
### Q1.性別を教えてください

	件数	比率
女性	50	64.1%
男性	28	35.9%
合計	78	100.0%



### Q2.年代をお選びください

	件数	比率
20歳代以下	2	2.6%
30代	3	3.8%
40代	17	21.8%
50代	27	34.6%
60代	19	24.4%
70代以上	10	12.8%
合計	78	100.0%

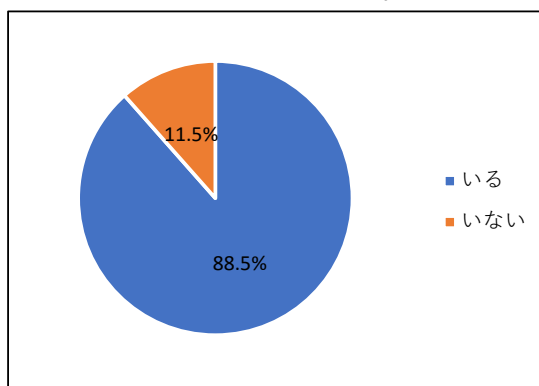


### Q3.お住まいの区市町村を教えてください

都道府県	件数	比率
東京	30	38.5%
神奈川県	8	10.3%
千葉県	5	6.4%
北海道	5	6.4%
愛知県	4	5.1%
埼玉県	4	5.1%
静岡県	3	3.8%
栃木県	2	2.6%
長崎県	2	2.6%
福岡県	2	2.6%
山口県	2	2.6%
愛媛県	2	2.6%
大阪府	2	2.6%
兵庫県	2	2.6%
石川県	1	1.3%
茨城県	1	1.3%
宮城県	1	1.3%
山梨県	1	1.3%
和歌山県	1	1.3%
	78	100.0%

Q4.現在または過去にご自身やご家族、周囲にがんにかかっている方はいらっしゃいますか。

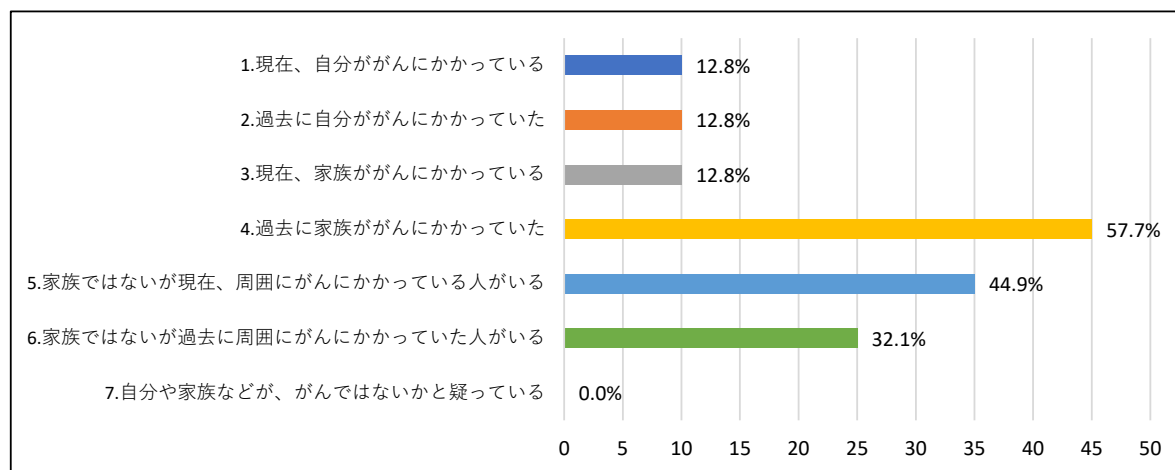
	件数	比率
いる	69	88.5%
いない	9	11.5%
合計	78	100.0%



a. (いると回答された方) 当てはまるものすべてをチェックしてください。

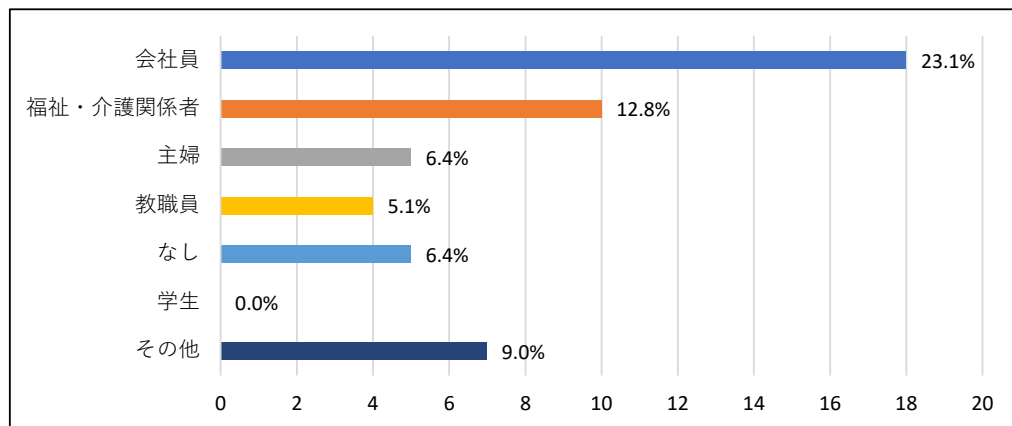
	件数	比率
1.現在、自分ががんにかかっている	10	12.8%
2.過去に自分ががんにかかっていた	10	12.8%
3.現在、家族ががんにかかっている	10	12.8%
4.過去に家族ががんにかかっていた	45	57.7%
5.家族ではないが現在、周囲にがんにかかっている人がいる	35	44.9%
6.家族ではないが過去に周囲にがんにかかっていた人がいる	25	32.1%
7.自分や家族などが、がんではないかと疑っている	0	0.0%
回答数	135	
回答者数	78	

※複数回答の為、回答者数より比率を算出しています。



Q5. 職種をお聞かせください。

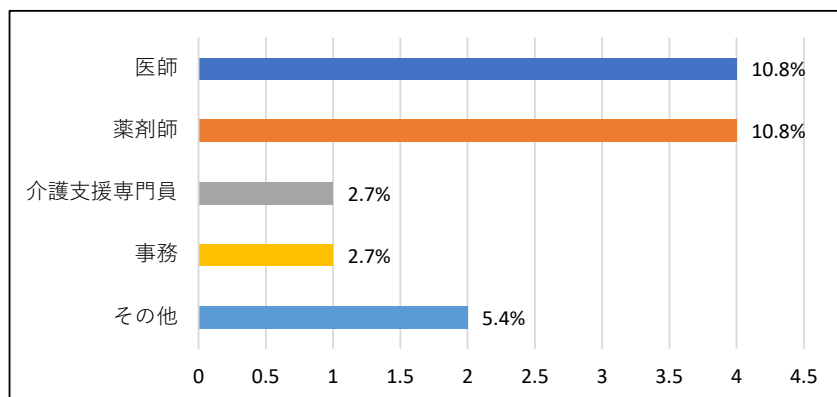
	件数	比率
医療関係者	29	37.2%
会社員	18	23.1%
福祉・介護関係者	10	12.8%
主婦	5	6.4%
教職員	4	5.1%
なし	5	6.4%
学生	0	0.0%
その他	7	9.0%
合計	78	100.0%



Q6. 上記で「3.医療関係者」および「4.福祉・介護関係者」にチェックされた方にお尋ねします。

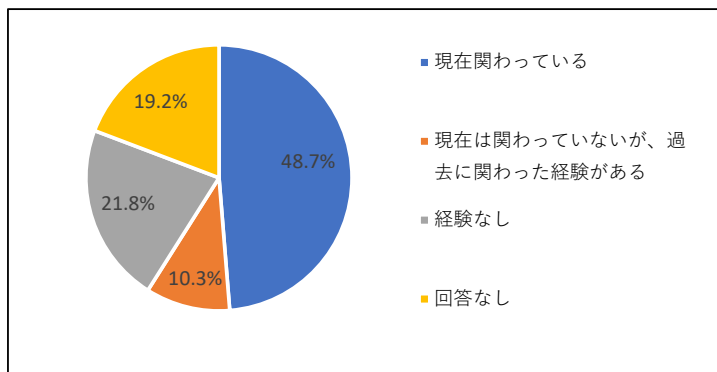
(1) 職種・専門分野をお聞かせください。

	件数	比率
看護師／保健師	16	43.2%
ソーシャルワーカー	9	24.3%
医師	4	10.8%
薬剤師	4	10.8%
介護支援専門員	1	2.7%
事務	1	2.7%
その他	2	5.4%
合計	37	100.0%



(2)がん患者さんやご家族などに対する相談支援に関わったご経験をお聞かせください。

	件数	比率
現在関わっている	38	48.7%
現在は関わっていないが、過去に関わった経験がある	8	10.3%
経験なし	17	21.8%
回答なし	15	19.2%
合計	78	100.0%

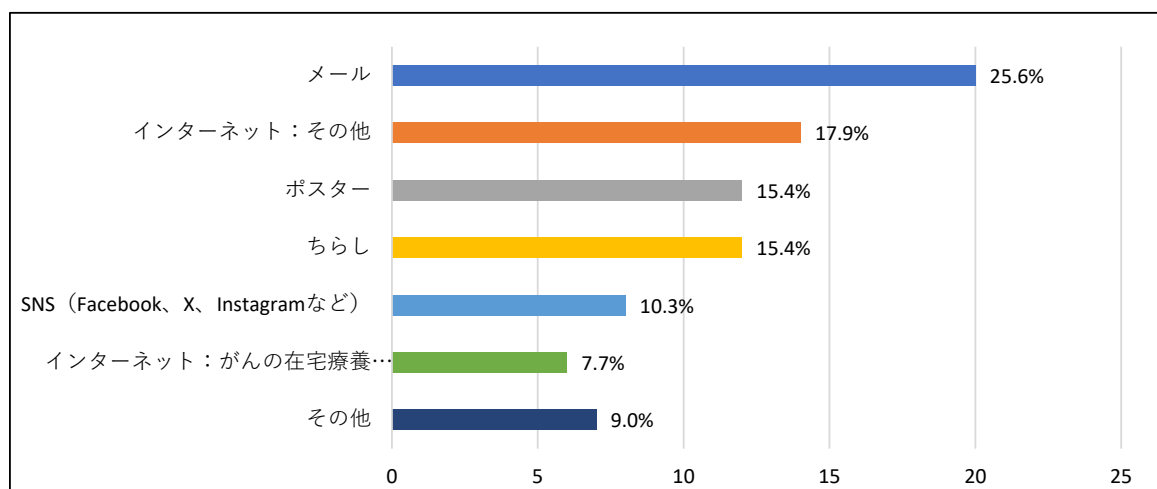


Q7.本日のフォーラムをどこで知りましたか。

	件数	比率
メール	20	25.6%
インターネット：その他	14	17.9%
ポスター	12	15.4%
ちらし	12	15.4%
SNS (Facebook、X、Instagramなど)	8	10.3%
インターネット：がんの在宅療養サイト	6	7.7%
その他	7	9.0%
回答数	79	
回答者数	78	

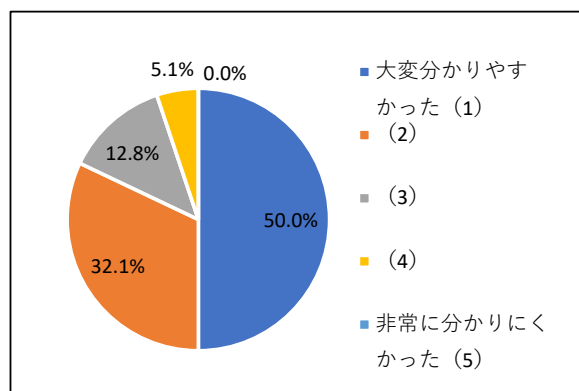
その他：知人から、放送大学、がんの在宅療養財団から など

※複数回答の為、回答者数より比率を算出しています。



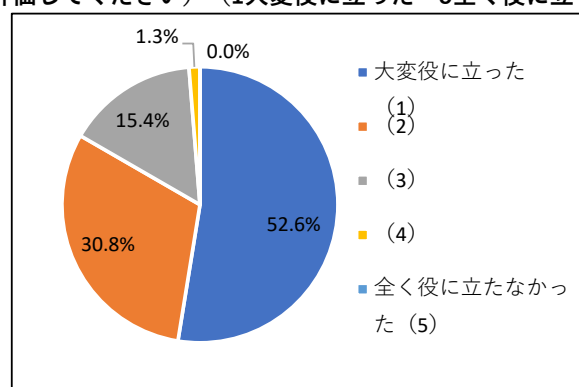
Q8.フォーラムの内容は分かりやすかったですか。(5段階で評価してください) (1大変分かりやすかったー5非常にわかりにくかった)

	件数	比率
大変分かりやすかった (1)	39	50.0%
(2)	25	32.1%
(3)	10	12.8%
(4)	4	5.1%
非常にわかりにくかった (5)	0	0.0%
合計	78	100.0%



Q9.フォーラムの内容は役に立ちましたか。(5段階で評価してください) (1大変役に立ったー5全く役に立たなかった)

	件数	比率
大変役に立った (1)	41	52.6%
(2)	24	30.8%
(3)	12	15.4%
(4)	1	1.3%
全く役に立たなかった (5)	0	0.0%
合計	78	100.0%



**Q10.あなたの考える「いつでも頼れるがんの情報と相談先」とは、どのような人や場所ですか。ご自由にお書きください。**

国立がん研究センター …11件  
がん相談支援センター …10件  
かかりつけ医、主治医、ホームドクター …10件  
信頼できる人、近い人（医療従事者の知人含む） …5件  
がん医療に特化した公的機関 …4件  
インターネット（学会や専門性のあるサイト） …4件  
病院の相談窓口 …3件  
がん情報サービス …3件

内容や欲しい情報によって変わってくるかとも思います。近い人にアドバイスしてもらいたい時もあるかと思えば、全く接点がない人にこそ相談しやすい時もあるかとも思います。
自分（自己決定）です。自分で理解した上で必要な方へ質問、相談します。
年齢や住まいにとらわれず、欲しい情報を得られる相談先であつたらいいなと思う。
本日、話の中にありましたが、検索をするタイミングを誰かが教えてあげる必要性も感じます。告知をされた時はまっすぐ帰らず、30分でも話を傾聴してもらい話すことにより、少しでも客観的に自分を見れ、問題や課題がおぼろげに見える状況で検索、相談したら良いように感じました。
会社で、ある程度病気の様子がわかるまで、病気については秘匿としながら健康相談や働き方についての相談ができたのはありがたかったです。地域ではがんごとの相談窓口など、些細なことでも気軽にきける体制もあるとありがたいと思いました。例、ウィッグを準備するにも十分な情報は得られませんでした。
地域包括ケアシステムに組み込んでいき地域社会での支援体制を強化する方向はもちろんですが、実際に診断を受けることになる医療機関内ですぐに相談できる窓口を広く設置し、外来から直結できるような体制整備が現実的な効果を期待できると思います。
敷居が高くない、気軽に立ち寄れるところ
生命保険会社に勤務している為、一般の会社の方に比べ講演会や研修などで情報を得やすい環境にはあると思うが、実際に自身ががんに罹患した時、相談先はどこになるのだろうか…と考えるきっかけになりました。
自分が緩和医療医として「緩和ケア外来」をしていると、治療科の主治医に訊きたいけど時間や雰囲気や訊きにくいことを聞かれます。それを聞かせて頂いていると結局は自分の主治医と相談したいと思われる方が8割程度、残り2割は逆に強く主治医に対する不満・不信を持っておられると思います。この不信も頼りたいという気持ちの裏返しのように推察できるので、最終的には治療主治医なのではないでしょうか？ただ、それが「いつでも」にはならないし、場所としても慌ただしい診察室が正しいとも思えません。
がんサバイバーの方の生活背景を考慮した情報と選択枠を提示できる人。
途中、移動で参加できませんでしたが、第2部のパネルディスカッションは大変興味あるテーマで参考になりました。「ランタン」は初めて聞きました。早速、調べてみました。今後、ますます使い易くなって行くと思います。人との対話はいつの世でも大切ですが、使いやすいツールの開発はありがたいです。このようなフォーラムを開催して頂きまして、ありがとうございました。
本フォーラムでご紹介いただいた情報源は頼れそうだなと思いました。

**Q11.本日のフォーラムでもっと詳しく知りたかった点や議論したかった点、お感じになったことなどをご自由にお書きください。**

参考になった、勉強になった …3件

勉強の必要性を感じた …3件

在宅療養についてもっと知りたかった …3件

アーカイブ視聴、資料の公開を希望 …2件

ランタンはLINEで誰でも入れます。実際、講演に参加していない方へ転送しています。轟さんがおっしゃったようにサイトの信用性を高める為に利用できます。防御方法としてどこで知ったかアンケートが先にあってもいいと思います。試しましたがとても安心感が高く困っている人に使用してもらいたいと思います。閉鎖は困るのでどうぞよろしく願いいたします。

財団やランタンの費用はどのようにまかなわれていますか？ そのスポンサーが降りたらランタン終了では、悲しいので持続可能であってほしいです。

自施設以外の支援先や患者・家族がどう考えているかについてよくわかりました。フォーラムを開催してくださりありがとうございました。

相談支援センターを実際に利用している人の意見など知れたらなおよかったです。

最後の児玉先生の会場のコメントが全てのように思いました。患者家族は答えを欲しがりますが、生成AIでは人の価値や生活までを汲み取って判断する（正しい答えを出す）ことはできないことを認識すること。生成AIが導き出した回答を、自身に適した情報にするための（患者家族間、また医療者との）対話の材料にできると、納得のいく医療に繋がるという考え方をしっかり持つ必要があると感じました。

がんサバイバーシップについてより深く知りたかった。

正しい情報へアクセスできることは当然ですが、そのうえで必要なことは何かの検討ができるとよかったです。

高橋先生の「わが家の場合」の話はとても分かりやすかった。がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」のようなものが、各地にできればいいと思う。

公共の為に、正しい事を進めようと行動する。正に日本人が沢山いる事に感銘を受けました。自己責任なんて言わない。がんになったのは自分なのだから自分で何とかしろ、と言わない。日本人此処に在り。と感じました。

自宅での緩和ケアができるのは稀なケースとしか受け止めていません。今までの経験上からは、終末期医療に対してあまりに楽観的な報告とか報道が目立つように感じています。医療レベルなのか腫瘍切除の術後に亡くなってしまったことがあり、医療現場はまだまだ問題があるように感じています。



## 【ご意見・ご感想】

大変参考になった、勉強になった …10件

人との関わりも大切であり、必要だと感じた …6件

ランタンを初めて知った、機能に驚いた …5件

勉強不足、学ぶ必要性を感じた …4件

今後もフォーラムを開催して欲しい …2件

ランタンをもっとPRして欲しい、人に教えたい …2件

がん患者さんから治療方針について用量が少なくないかなど 直接医師に聞かない事などを薬局で話される事も多々あります。またがんリハビリや栄養相談、セカンドオピニオンはどこがいいかなども質問されることも多くとても迷います。がん相談支援センターをもっと活用していただくのがいいのかなと思うことも多々ありますが街の薬局としては解答できるように 自分も研鑽を積みみたいと思っております。

自身が乳がんになり仕事と治療の両立に悩みました。人間ドックでがんが見つかり、クリニックでも相談に乗って頂きましたが、それでも病院探しは、家庭や仕事の状況よりなにを基準に決めていけばいいのか、最良なのか短期間にいろいろ決めていくのも大変でした。また仕事を休職するか治療しながらとするか、なども悩みました。

講演内容も講演後のディスカッションも有意義でした。素人は医学の専門知識など皆目わかりません。従って心配になってもどう情報をとればいいのか、そしてどうその情報を選択すればいいのかわからないのです。混乱します。今回の講演はこれに的が絞れており、実体験の形でお話がされていました。その上で情報提供と支援の取り組みについて話されていました。AIがどこまで入力した文章から相談者を気持ちや背景が汲み取れるのか定かではないですが、まずは怪しい情報を排除し選択可能なより信頼度・精度の高い情報に行き当たる事が大切で、その意味で極めて有効だと思いました。その次はやはり人(相談員や専門家)が関わって得られた情報を今一度整理しなおして自己決定できる形に変換することも必要かと。またどなたか講演者がおっしゃっていましたが、病気を抱えている患者・家族と一緒にになって共感し、伴走してくれる、相談に乗ってくれる人、その時その場面で関わってくれる人が必要です。そういった仕掛けも出来て来るといいかなと思って聞いていました。

世の中にがんに関する概論的な情報は溢れているが、具体的にどうしたらいいか、どうすべきかに悩み途方に暮れている患者さん、ご家族は非常に多いと感じています。私自身は在宅医として直接がん患者さんやご家族と接する立場にありますが、病院やケアマネジャーから紹介頂く方々にしか情報を届けることができません。このような機会が頻繁にあればいいと思いますし、その周知、広報をもっと徹底させられる方策を講じる事ができたら、多くの方々の不安を和らげることができると感じました。

Helpfeelを使ったLanternが素晴らしかったです。いくつか質問を試行させていただきましたが、よく考えられているなと感じました。今後の発展を心から応援しております。

今回の東京フォーラムは、大変有意義な情報で各講演者の経験も含めた内容でした。今後ともランタンの開発と共に現場での協力者の養成（ランタンを利用するインストラクターなど）が両輪となれば、更なる社会貢献のツールとして発展できると思います。今後とも『がんウィット（ランタン）』の啓発を期待しています。

がんサバイバーの方が、リンパ浮腫や日常生活について気軽に来られるよう、臨床を飛び出しサロンを開設しました。患者さんだけでなく私のような臨床現場から離れ、個人事業主としてがんサバイバーの皆様を支えられるよう統一した情報を得られる必要がある。ランタンでは、こうした状況にある医療従事者の資格を持ちつつ個人事業主で活動している方も活用できるようにして欲しいと切に思った。がんサバイバーシップのお話が非常に興味深く、医療機関や自治体だけでなく、がんサバイバーの方の受け入れを実施しているサロンと提携できるようにしていただくことで、地域包括支援としてのネットワークが強化されるのではないかと感じた。特に、リンパ浮腫難民が多く存在し、医療機関の受診が3ヶ月待ちの状態であり、少しでも発症に不安を抱える方や発症し症状に悩まれている方の一助となれたらと考え、臨床を辞め個人事業主としてサロンを開設した経緯があります。自治体で個人の産後ケアサロンの契約や案内と制度が確立されているように、医療機関だけでなくサロンを開設しがんサバイバーの支援を何らかの形でされている、個人施設などのマップやご案内など、こうしたネットワークの形成がなされることも地域包括支援として充実するのではないかと思います。

がん情報についての最新情報として、ためになったのですが、在宅療養という部分も、もう少しお話を聞きたかったです。

情報とコミュニケーション、がん医療において常に必要なことなのに、最も難しい課題です。ITの進歩によって、その両方も変わっていきませんが、人間同士の血の通った関係は忘れずにいたいものです。

ランタンの実際の使用例等を紹介してもらいたかった。記述・記載例とランタンからの回答についてなども。生成AIを使うと大変便利だと感じるがあるので、一層、ランタンの使用例についてより詳しく知りたかった。

ご自身の経験談を踏まえてさまざまなケースと情報源をご紹介いただいたので参考になりました。何かあった時に慌てないためにも、がんに関する情報は自分ごととして追っていきたくと改めて思われました。また、身近なところから本フォーラムの内容について情報を共有していきたいと思います。今後どうぞ、お励みください。